

赤野井湾底質改善水域モニタリング調査

中嶋拓郎・竹上健太郎

1. 目的

赤野井湾では漁場環境改善のため、平成4年度から平成10年度にかけて浚渫と覆砂が行われた。本調査は、それら事業の現状を把握することを目的に実施した。

2. 方法

平成29年3月に、平成4、6、8および10年度に施行された覆砂区4定点（図1）にてアクリルパイプで柱状試料を採取して泥の堆積厚を目視にて計測した。また覆砂区4定点と無覆砂区1定点（図1）にて、底層の溶存酸素量（DO）を計測するとともに、エクマンバージ採泥器で1定点につき3回採泥後、試料を2mmのふるいにかけて、ふるい上に残った貝類について、個数と重量を測定した。

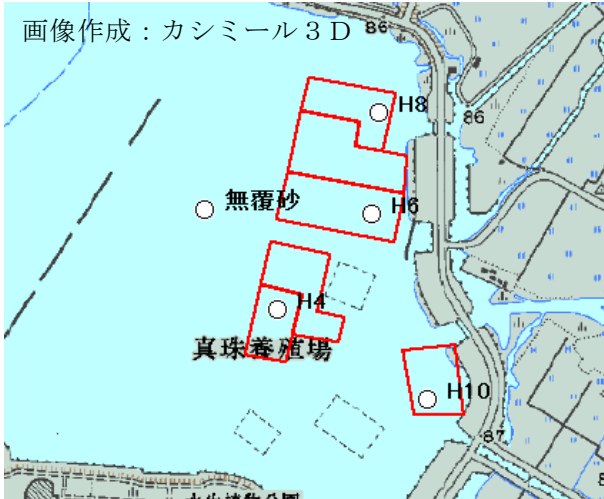


図1 調査地点図

3. 結果

各定点の泥の堆積厚は、平成4年度覆砂区が1.0cm、平成6年度覆砂区が1.9cm、平成8年度覆砂区が0.5cm、平成10年度覆砂区が1.8cmであった（表1）。

各定点の底層のDOは、7.4mg/l～9.7mg/lの値であり、どの地点においても特に低い値は確認されなかった（表1）。

貝類の生息状況は、シジミ類が平成4年度覆砂区で7個体、平成6年度覆砂区で3個体、平成8年度覆砂区で6個体確認された。また無覆砂区でも1個体確認された。平成10年度覆砂区ではシジミ類は確認されなかったものの、無覆砂区と比べて覆砂区でシジミ類は多い傾向にあると考えられた（表1）。なお平成8年度覆砂区では小型のシジミ類も確認された（図2）。

今後も調査を継続し、各覆砂区の現状をモニタリングしていく必要がある。



図2 平成8年度覆砂区で確認されたシジミ類

表1 水質・底質調査結果

地点名	泥堆積厚(cm)	底層DO(mg/L)	シジミ類	タテボシガイ	ヒメタニシ	カワニナ類
			(数/g)	(数/g)	(数/g)	(数/g)
H4覆砂	1.0	9.2	7/7.5	2/33.8	22/32.0	1/0.6
H6覆砂	1.9	7.4	3/1.4	-	6/14.3	-
H8覆砂	0.5	7.5	6/1.5	-	3/5.0	-
H10覆砂	1.8	8.9	-	1/5.8	13/23.0	-
無覆砂	-	9.7	1/0.8	-	3/11.9	-

本報告は水産業強化対策推進交付金の助成を受けて実施した。